

# 事後評価結果（令和元年度）

担当課：中国地方整備局道路部道路計画課  
担当課長名：兼松 幸一郎

事業名	一般国道9号 仁摩・温泉津道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：島根県大田市仁摩町 大国 至：島根県大田市温泉津町 今浦			延長	11.8km

## 事業概要

一般国道9号は、京都府京都市から山口県下関市までを結ぶ延長約730kmの主要幹線道路である。  
一般国道9号仁摩・温泉津道路は、山陰道の一部を構成する島根県大田市仁摩町大国と島根県大田市温泉津町今浦を結ぶ延長11.8kmの自動車専用道路である。

## 事業の目的・必要性

一般国道9号仁摩・温泉津道路は、緊急時の代替路線の確保、交通安全の確保、観光・医療・物流活動を支援するとともに、広域交流の促進及び地域活性化に寄与する自動車専用道路である。

## 事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H16年度	用地着手	H16年度	供用年	当初 H26年/ H36年	変動	— 倍
		都市計画決定	H15年度	工事着手	H17年度	(暫定完成)	実績 H26年/ —		
	事業費	計画時	名目値 — / 約660億円	実績	名目値 約511億円/ —			変動	— 倍
		(暫定完成)	実績値 — / 約658億円	(暫定完成)	実績値 約514億円/ —				
	交通量	計画時	— / 15,500~15,800台/日	実績	5,700~5,800台/日 / —			変動	— %
		(当該路線)	(暫定完成)	(暫定完成)	(暫定完成)				
	旅行速度向上		56.0 → 70.2 km/h	交通事故減少		15.1 → 6.9 件/億台キロ			
		(供用前現道→当該路線)	(供用前年次) H22年度 (供用後年次) H27年度	(供用前現道→供用後現道)		(供用前年次) H23~H25年 (供用後年次) H28~H29年			
	費用対効果	B/C	総費用	577億円	総便益	872億円	基準年		
	分析結果	1.5	事業費：554億円 維持管理費：23億円		走行時間短縮便益：679億円 走行経費減少便益：140億円 交通事故減少便益：52億円		H20年		
費用対効果	B/C	総費用	772億円	総便益	1,233億円	基準年			
分析結果	1.6	事業費：713億円 維持管理費：59億円		走行時間短縮便益：986億円 走行経費減少便益：200億円 交通事故減少便益：47億円					
事業遅延によるコスト増		費用増加額	— 億円	便益減少額	— 億円	R元年			
事業遅延の理由	特になし								

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渋滞損失時間が削減した。【削減時間：467 千人時間/年】</li> <li>・江津市から出雲空港へのアクセスが向上した。【江津市役所～出雲空港：106 分⇒104 分】</li> <li>・石見交通：大田江津線の便数が6 便/日増加し利便性が向上した。</li> </ul> <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大田市から浜田港（重要港湾）へのアクセスが向上した。【大田市役所～浜田港：76 分⇒74 分】</li> </ul> <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接した日常生活圏中心都市間を最短時間で連絡した。【大田市～浜田市：74 分⇒72 分】</li> </ul> <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産石見銀山へのアクセスが向上した。【浜田港～石見銀山：66 分⇒61 分】</li> </ul> <p>⑤安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三次医療施設へのアクセスが向上した。【江津市役所～島根県立中央病院：85 分⇒81 分（指定最高速度より）】</li> </ul> <p>⑥安全な生活環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現道（国道9号）の死傷事故件数が減少した。【減少件数：5.0 件/年】</li> </ul> <p>⑦災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県の第1次緊急輸送道路に指定。（国道9号、仁摩・温泉津道路）</li> <li>・緊急輸送路である国道9号が通行止めになった場合の代替路線を形成する。</li> <li>・現道区間の要防災対策箇所27箇所（H16）を回避。</li> </ul> <p>⑧地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2 排出量が削減した。【削減量：約11 千t/年、1,265 千t/年→1,254 千t/年】</li> </ul> <p>⑨生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NOX 排出量が削減した。【削減量：約31t/年、2,889t/年→2,858t/年】</li> <li>・SPM排出量が削減した。【削減量：約2.4t/年、153.0t/年→150.6t/年】</li> </ul> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
<p>の事業による環境変化等</p>	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>環境影響評価実施要綱（昭和59 年閣議決定）に基づき、環境影響評価を実施。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大田市の人口は平成7年以降減少。【平成7年：45千人→平成27年：35千人】</li> <li>・大田市の自動車保有台数は、平成7年から平成17年まで増加したが、以降、平成27年にかけてやや減少。【平成7年：260百台→平成27年：288百台】</li> </ul>
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>本事業は事業目的に見合った事業効果の発現が確認されており、当該事業のみを対象とした今後の事後評価の必要はないと考える。</p> <p>山陰道の一部を構成する仁摩・温泉津道路整備により、安全、安心の確保、救命救急活動の支援、山陰道沿線における企業活動の支援など一定の効果が確認できることから、改善措置の必要性はないと考える。なお、4車線整備については、今後の沿線周辺などの開発や交通状況等を踏まえて検討する。</p>
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>同種事業の計画・調査にあたっては、沿線自治体の目指すべき姿（地域の取組）と整合させ、経済、観光等の関係者から情報収集を行うなど道路整備による多面的な効果の把握に努める必要がある。</p> <p>一体となって効果を発揮する道路ネットワークについてはそれらをまとめて評価することも重要と考える。また、今後周辺道路整備が進み更なるネットワークとしての効果も発揮することが期待されるため、引き続き社会経済指標やビッグデータ等データの蓄積に努める。</p>
	<p>特記事項</p> <p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。